02 3世代交流イベント「クリスマス会」を開催！

認知症対応型デイサービス「五感リハビリ倶楽部®」にて、高齢者、親・子世代を繋ぐ３世代交流イベントとして「クリスマス会」が催されました。地域包括ケアシステムの実践を目指したこの取組みは、高齢者デイサービスに地域住民の方を招き、互助的な交流関係を築きあうイベントです。運営推進会議でご協力をいただいている関係者の皆様や近隣の幼稚園・保育園の皆様、園児ご家族の皆様などのご理解とご協力のもと、とても楽しい時間を共有させていただくことができました。ありがとうございました。

同イベントでは、ゲームやお菓子のプレゼント、地域ボランティアの方によるクリスマスソングや懐メロの演奏が披露された他、園児による合唱やメッセージカードの贈り物に涙を浮かべるご利用者様もいらっしゃいました。また、ご利用者様からは、事前に準備したクリスマスケーキや手芸品が子どもたちに贈られ、温かい交流の場が生まれました。今後も創心會では、各デイサービスにて、地域の皆様との交流イベントを予定しております。ぜひ、皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。

03 第16回「生活力デザイナー」検定が行われました！

先頃、創心會では第16回「生活力デザイナー」3級検定が開催されました。今回の受講者は13名、筆記試験合格者13名、実技試験合格者7名でした。「生活力デザイナー」合格者は、主にデイサービスに配属され、高齢者の心身機能や代表的な疾患理解を深め、機能訓練指導員と協同してサービスを提供します。

「生活力デザイナー」検定では、ご利用者様が新たな生活する力を獲得し、その方が主役になれるステージづくりを支援することのできるスタッフの育成を目指しています。受験者は、リハビリテーション理論や運動療法、利用者様と一緒に生活目標を計画・立案する手法や専門知識を勉強します。2009年から開始され、取得者数は165名（正社員131名、パート34名）にも上ります。創心會では、今後もご利用者様の生活課題にアプローチできる専門職育成に取り組んで参ります。

「生活力デザイナー」制度についてはコチラ ➡

第二回 創心會男前GP 輝く精鋭 人気投票!!

実施中！

創心會 主催

2016年12月17日、遂に第二回創心會男前グランプリの幕が切って落とされました！

男前グランプリとは、株式会社創心會の現場で活躍する若き精鋭の中から10名を選抜し、さらに、その中で最も輝く男前を皆さんの投票で決めていただくプロジェクトです。記念すべき第一回では、大変多くのご投票をいただき、総得票数は、なんと 14,611票！！投票にご協力くださいました皆様、誠にありがとうございました！！第二回は「リハビリ部門」の輝く精鋭10人がエントリーをしています。グランプリの座を目指して猛スタートをきった者、戦況を見極めるべく沈黙を貫く者――、その戦術にも注目です！

創心會ホームページでは、毎日１回、どなたでも投票できます。また「創心會ブログ」では、彼らの素顔や熱い思いを紹介していきますので、そちらもぜひご覧ください。

「第二回創心會男前GP」については、創心會ホームページから ➡

PRIDEsign powered by Soushinkai 2017 - No59
2017年第59号 平成28年1月1日発行
編集・発行 株式会社 創心會 広報部
株式会社 創心會®
岡山県倉敷市茶屋町2102-14 〒710-1101
TEL.(086)420-1500 FAX.(086)428-0946
URL:http://www.soushinkai.com

PRIDEsign powered by Soushinkai
Total Care-Service SOUSHINKAI

1月号

心から創から

株式会社創心會 望年会／あっぱれ還元祭

あけましておめでとうございます
謹んで新春のお慶びを申し上げます

01 「衣替え」という作業に焦点を当てたトップダウンアプローチ
02 3世代交流イベント「クリスマス会」を開催！
03 第16回「生活力デザイナー」検定実施！

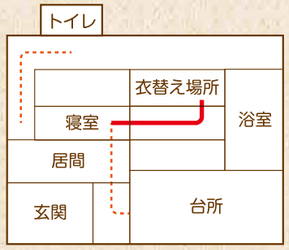
01 「衣替え」という作業に焦点を当てたトップダウンアプローチ　訪問看護リハビリステーション

現在、活動的な生活を送るための「高齢者が継続したいと思っている作業が再び行えるようにする」支援が求められています。ご利用者様にとっての「意味のある作業」に着目し、アプローチをするには、面接の時間を設け、目標を共有することは非常に重要です。今回は、家庭内役割が困難になり、意欲低下がみられるご利用者様（以下、A様）に対して、セラピストが協働して「衣替え」という作業に焦点を当てた目標が設定され、ADLが以前より改善した事例です。

面接を通した、ご利用者様との協働関係の構築へ

80歳代後半／女性
要介護５

- **診断名**：右小脳出血、アルツハイマー型認知症、高血圧症
- **既往歴**：X年Y月に右脳出血を発症。B病院で保存的治療後、同年Y＋１か月後にC病院にリハビリテーション目的で入院。Y＋７か月後、訪問看護ステーションからのリハビリサービス開始。
- **家族構成**：長女・次女は県外に在住、長男は県内在住であるが、長男は仕事が多忙なため、長女が月に１回病院受診や買い物などに行くために帰省されている。
- **住居環境**：部屋と部屋の間は襖で仕切られており、敷居によりわずかに段差がある。廊下には手すり、寝室から台所まではベストポジションバーを把持し伝い歩きで移動をされる。寝室と居間の間には15cmの段差がある。
- **生活歴**：長年、家事をされていた。きれい好きで掃除をよくされており、家のどこに何を置いてあるのかを把握されている。愛育委員や地域の役員もされていたこともある。現在、通われているデイサービスへも長年ボランティアに行かれており、なじみが強い。趣味は刺し子。
- **他サービス**：術前は訪問看護（リハビリ）週２回、デイサービスを週２回利用。術後はA様とご家族の要望で、弊社の訪問看護（リハビリ）を週３回利用で再開される。デイサービスは中止。



普段歩かれる箇所
今回アプローチをした箇所

訪問リハビリの介入ポイント

面接からのアプローチ

長年家事をしていたA様にとって、「衣替え」は家庭内役割の一つであった。歩行困難になってからは、這って箪笥の前に移動をするので大変だと訴えられる。現在は、娘様の帰省時にA様が入れる場所を指示され、娘様が代わりに衣替えをされているが、もどかしさを感じている様子であった。そこで、歩行器を使い実際に歩くことを提案した。まだ不安そうであったが、練習と環境設定をすることで「衣替え」ができるようになることを伝えると、表情が明るくなり、どうやったらできるのかを尋ねられた。具体的に**①敷居の段差解消をすること、②リハビリの時に屋内で歩行訓練すること**を提案すると、A様の意欲の向上が見られた。

妨げている要因

- ➡右側小脳症状、易疲労性
- ➡認知機能低下
- ➡方向転換が不安定
- ➡ブレーキを掛け忘れる
- ➡部屋の間に約５cmの敷居
- ➡同居の夫が高齢で介助困難

現状能力（強み）

- ➡筋力・可動域問題なし
- ➡リハビリ意欲が高い
- ➡単身で箪笥の開閉可能
- ➡服の持ち運び可能
- ➡歩行器での直線移動安定
- ➡娘様が月１回帰省される

予後予測

心身機能はデイサービスで維持でき、ブレーキをかけることの意識付けを反復練習と娘様の声かけで定着を図り、段差解消で環境整備を行うことで衣替えが可能であると考えられる。

介入経過（訪問リハビリ）の流れ

長期目標：

「移動は娘様の見守りのもと、実施する。衣服の出し入れは自分で行い、自分でできないところ（高い場所や移動が困難な場所）は娘様に協力をお願いする。」に決めた。期間は3か月にし、長期目標達成の時期が１月下旬であるため模擬的動作を動画で撮影し、再評価。春の衣替え時に不安が少ない状態で衣替えが実施できるように目標設定を行った。

短期目標：

- ★1ヵ月目… ベッドから箪笥までの歩行を５往復実施できるようになる。
- ★2ヵ月目… 歩行器に服を乗せ箪笥の前に移動し、箪笥の前に設置した椅子に座り、服の出し入れを行う。
- ★3ヵ月目… 一連の動作練習を行い、長女様の介助で実際に衣替えを実施する。

	アプローチ内容	経　　過
介入１ヵ月	寝室から箪笥のある部屋までに５cmの敷居がある。そのため歩行器の前輪が引っ掛からないよう、家族様の協力もあり敷居の前後にスロープを設置することができた。	当初は慣れていない場所での歩行であったため、３往復で疲労がみられた。 反復練習により５往復実施しても疲れない体力を獲得することができた。
介入２ヵ月	歩行器の座席に物を乗せて歩くことを提案。 徐々に乗せる衣服の数を増やしていき、最終的には10着程度を座席に乗せても落とすことなく屋内歩行が可能になった。	ブレーキのかけ忘れが課題だが、目標としていた動作の８割を達成することができたことを話し、A様のモチベーション維持を図った。
介入３ヵ月	A様の椅子への移乗動作の安全性向上のため、反復練習を実施した。それにより、ブレーキのかけ忘れの頻度が軽減し、移乗動作も向上がみられた。 長女様が帰省される日まで、一連の動作練習を実施し、リスクが高いところをA様と話し合いその動作の安定性向上を図った。 	長女様が来られた日に、転倒リスクが高い動作について話し、介助方法と見守る位置についての指導も実施した。実際に長女様の介助で衣替え動作を実施すると、特に問題もなく実施が可能であった。そして、実際の動作を動画で撮影し見ていただき、A様と長女様に上手にできていたことを伝えると、長女様からは「歩行が上手になってきたから廊下も歩けるようになったら良いな」とA様に期待していることについての発言がみられた。 A様は、褒められたことに恥ずかしそうにされる。
現　在	歩行が安定してきたことから、A様自身にも少し自信がついてきた。衣替え動作で歩行が安定したことで、狭い廊下の環境でも少しずつ歩行訓練を実施し、廊下のつきあたりにトイレまで歩行器を使用して移動ができるように今後練習を実施していきたい。	

考察・まとめ（振り返り）

今回、A様が以前より家庭内役割をできるようになったのには、面接の時間を設けることがポイントになった。面接を行うことで、A様の「したい作業」に対して抱く思いや意味などを知ることができ、ご利用者様の心創りや、ご利用者様とセラピストの信頼関係の構築にも繋がったと考えられる。信頼関係が形成され、ご利用者様の主体的な行動を支援し、一緒に目標を立てて共有することで、“ご自身が主体的に行動をしていること”や“ご自分の生活を構築している”という意識を持つことに繋がると考えられる。

提供ポイント

① A様から従事したい作業（意味のある作業）について発言を引き出した。
② 目標共有のために面接の時間を設けきっちりと目標を共有できたこと。
③ 短期目標とその達成期間を細かく明確に設定した。
④ ご家族にもフィードバックを行い、A様のモチベーションを高く保てた。